
「一能力者 The First Person With Supernatural Power>

Kyura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の第一能力者 The First Person
With Supernatural Power

【ISBN】

978501P

【あらすじ】

とある神のせいで死んでしまった主人公。
彼の転生先は？とある”の世界で地球ができた頃に送つて
もらい不老不死になり全ての能力者の始まりになつた話です

The 1st Episode (前書き)

初めまして Kyuria です。初作品なので温かく目で見て貰えると嬉しいです。
なお、この作品は、オリ主・最強が苦手な人は、『戻る』を選択しても構いません。では、始まります。

The 1st Episode

『????? side』

・・・・・なぜ僕は何もない場所にいるんだ?
まずは、落ち着くんだ・・・クールに、クールにだ。
さて、周りの状況を把握することが大切だ。
右は、面白くないほど何もない。左も何もない。後ろも何もない。
前は、白いおじいちゃんが土下座をしているな。
上はなぜか青空が広がっているな。ん? さてよ・・・
なんか前にいたな。

『おじこさん、何をしていろんですか』

『すまん、ワシのせこでお主を死なせてしまった』

『じじいじじいじじー? 詳しく説明しぃジジイ』

『おじょ?お主話しが変わつていなか

『当然だ、僕を殺した奴に敬意を払うか』

『う・・それは、正論だが

『まあいい、此処はどじだ?』

『此処は現世と冥界のさかいだ』

『やうか・・・で、今更だがお前誰だ』

「ワシは、お主らの世界で語り神達の頂点の創造神だ」

『その神達の頂点が僕を此処に呼んだ訳はなんだ』

「お主は、ワシが神と知つて驚かないのか」

『ああ、驚くだけ無駄だと思つてな』

「さうか・・・まあいい、先ほど言ったようにワシがお主を死なせてしまったから

異世界に転生せんが」

『僕がいた世界は、無理なのか?』

「それは、お主お主の世界の理に反してしまつから無理だ」

『僕の行く異世界は、ビリだ』

「死なせてしまつたワシが語りのも何だが、お主よくすぐて割り切ることができたな」

『まあな』

「お主が行く世界は、とあるの世界だ。お主をワシのせいに死なせてしまつたから4つまで

願いを叶えよ!」

『なら一つ目は全ての能力の?創造と破壊"ので、2つ目は、不死にして不死にして

3つ目に地球にできた時に送つてくれ』

「ふむ、了解した」

『最後に、魔術を使っても副作用をなくしてくれ』

「では、地球ができた時に送るぞ」

頼んだぞ

「じゃあ、行って来い」

『アリサビ』

「ハサウエイ」

突然足元に穴が開き当然重力に勝てずに落下して僕の意識は無くなつた。

『なぜ恐竜が・・・・そういうえば地球ができた頃に送つてもうつたんだつたな。

『まず、もう1つ自分に能力を追加してそれを上書きして能力を変えるということだな。

最初は、瞬間移動 テレポート に変えて』

恐竜の背後に瞬間移動 テレポート をした。

そして、瞬間移動 テレポート を物質変化 マテリアルチエンジ
に変えて

能力を使い石を鉄に変えさらに、物質変化 マテリアルチエンジ
から

発電能力 エレクトロマスター に変え、超電磁砲 レールガン
を撃つた。

超電磁砲 レールガン は、恐竜に穴をあけ、穴をあけられた恐竜
は、息絶えた。

The 1st Episode (後書き)

誤字・脱字があれば報告をください。

Establishment (前書き)

前回主人公の紹介を忘れていたので紹介します。

Establishment

名前 御神 創破 ミカミ ソウハ

身長 175cm

体重 60kg

身体能力 上の中で不老不死。魔術を使ってもリスクはないけど、使える回数が決まつていて、一日に使える

から不老になる。
回数を越えると不老不死

と拒否反応が起き、
不老になつて魔術を使う

死に至る。頭の良さは、

樹形図の設計者
ツリーダイアグラム の
演算中枢 シリコランダム
を一人で作る程。

容姿 髪は藍色で腰までのロング、目は空色で
顔は女顔。

10人中8人が振り返る美形。

能力名 創造と破壊 クリエイト&ブレイク
と自身の能力で

移動 テレポート が
追加した能力で、普段は瞬間

ある。

能力の解説	創造と破壊	クリエイト&ブレイク	自分自身に能力を
追加し、その能力を更する。	創造と破壊 クリエイト&ブレイク と力は扱い上、天然になる。	上書きし能力を変更した能	上書きし能力を変
現実	測定不能 で	創造と破壊 クリエイト&ブレイク は、	創造と破壊 クリエイト&ブレイク は、
リティー を分析し	0 5のどれにでも可能。	創造と破壊 クリエイト&ブレイク で追加した	創造と破壊 クリエイト&ブレイク で追加した
とができる。なお、一度分析した	相手の自分だけの	能力はLEVEL・EX	能力はLEVEL・EX
破壊や変更するこ	能力を戻すことが	創造と破壊 クリエイト&ブレイク は、	能力と同系等の能
能力の分析をせずに破壊や変更を	パーソナルリア	創造と破壊 クリエイト&ブレイク は、	創造と破壊 クリエイト&ブレイク は、

他人に能力を与えることも可能

である。

Establishment（後書き）

追加設定があれば前書きか後書きに書きます。
そして、書きながら「これは、最強過ぎる」

と思いながらも書きました。

内心やつてしまつた感があるけど、このままやつていきたいと思いま

す。

次回は、The 2nd Episodeで時間が大幅に
進むので、注意下さい。

The 2nd Episode

side創破

何千年経つと僕を転生させた神からの念で僕がこの世界の神になつた事を伝えられた。神曰く、僕は長年この世界に存在した為に、他の神が干渉できなくなつてしまつたので必然的に僕が神になつてしまつたのである。

それから、何億年経つて冥土返し ヘブンキャンセラー がアレイスターを救い、学園都市ができた。え・・・ 何故知つているかつて？もちろんその場所にいたからな。僕は”黄金の夜明け団”に所属していて、アレイスター抹殺命令に反してアレイスターを助けようと冥土返し

ヘブンキャンセラー をアレイスターの所に案内した。何故”黄金の夜明け団”に入ったかて？・・・ だつてアレイスターといふと暇じやないからな。

因みに僕はほぼ全て靈装の作成に携わつてゐるから魔術についての知識は誰にも負けない。おつと、話が逸れてしまつたついに、アレイスターと冥土返し ヘブンキャンセラー と一緒に学園都市を作つた。僕は統括副理事長になつた。

要は、学園都市の実質N.O.・2である。
それから、数年経過し上条当麻が入学しその2年後に御坂美琴が入学した。

上条は幻想殺し イマジンブレイカー の所為でLEVEL・0 &不幸な生活をしていた。

一方、御坂は能力開発で発電能力 エレクトロマスター が発現してから努力してLEVEL・1からLEVEL・5になつた。
そう言えば、僕は追加した能力の質量移動 マスムーブ を主にしている。

因みに僕は今、上条が在籍している高校に転入生としてきてる。

『失礼します。』と言い職員室に入る。すると、

「貴方は昨日の職員会議で言つていた転入生ですかー？」

と、下から聞こえてきた。・・・下から！？

ふと下を見ると身長135cmくらいの子供がいた。

「初めまして、私は月詠小萌です」

『初めまして、僕は御神創破です』

正直、自分の対応能力には驚かされた。

「御神ちゃんは先生のクラスに転入することになったのです」

『そりですか、では宜しくお願ひしますよ小萌先生』

「はい、任せるのですよ」

そして、教室に着き

「先生が先に教室に入つて説明するので、御神ちゃんは後から入つてくるのですよ」

と、言い教室に入つていった。

side創破end

side上条

小萌先生が教室に入つてきて

「はいはーい、それじゃさつさとホームルーム始めますよー。
えー、出席を取る前にクラスのみんなにビッグ一コースですー。な
んと今日から転入生追加ですー。」

おや?とクラスの面々の注目が小萌先生に向く。

「因みにその子は男の子?ですー。おめでとう子猫ちゃん達
ー、残念でした野郎どもー。」

おおお?とクラスの面々が騒ぎたてる。

「さあ転入生ちゃん、どーぞ」

転入生が入つてきた。その転入生は男子制服を着たかなり
美人な女の子【・・・】だった。

side上条end

side創破

僕が教室に入ると、クラス中が大喜びした。

『先ほど、小萌先生から説明がありました転入生の御神創破です。
みなさん宜しくお願ひします』

と、言うと金髪のグラサン土御門が不思議な顔をした。

まあ、当然である。裏との繋がりがある土御門は学園都市N.O. 2

と同名の奴が転入してきたからである。そんなことを考えていると、

「因みに今日は能力検査 システムスキャン の日なのです。御神ちゃんは後で職員室に来て下さい」

と、言い残して教室を出でていった。

とりあえず、クラスのみんなとは仲良くなつた。
特にクラスの3バカ デルタフォース の3人と。

それから職員室に行き能力検査 システムスキャン の仕方を
聞き、能力検査 システムスキャン をした結果、

「御神ちゃんの能力は強すぎるるので設備のいい常盤台中学校に行つて下さい」

とのこと、あらかじめ常盤台中学校の場所を知つていたので
質量移動 マスマーブ を使い移動した。

常盤台中学校の前にツインテールの少女があり、

「貴方が、御神創破さんですか？」

と、聞かれたのでそれを認めるグラウンドまで引きずられた。なんのさ一体！？と思つていると気が付けばグラウンドにいた。何故かギャラリーがたくさんいた。

そして、引きずってきたツインテールに

『此處で能力を使うのか？』

と、聞き領いたので使うと

91 - 6kg

総合評価【5】

新たなる「EVE」・5が誕生した瞬間であった。

The 2nd Episode (後書き)

追加

神様兼統括副理事長

質量移動 マスマーブ LEVEL .5

質量移動 マスマーブ

移動限界距離 512 .59 m

最大質量 2 t

自分の周囲 102 .67 m 以内に特殊な磁場を作り
ソナーと同じ役割を果たすので 102 .67 m 以内の
物は触れずに移動させることが可能。

何か最強の奴に最強の武器を持たせたような
気分になりました。

誤字・脱字があれば、報告下さい

The 3rd Episode (前編)

今回もなんかすゞしぐだぐだです。
誰か——文才をくださ——い。

The 3rd Episode

（ side 創破）

常「えええ——」

と、ツインテールの少女と周りのギャラリーが驚いている間に僕は質量移動 マスムーブ を使い自分の高校の前に戻り職員室に入ると小萌先生が

小「あれー？ 御神ちゃん帰つてくるのが早いですねー。じゃあ、能力の「EVE」を報告するですー」

『一様、瞬間移動 テレポート 系で「EVE」・5です』

小「えー、もう一度言つてくれませんか？」

『だから、瞬間移動 テレポート 系で「EVE」・5です』

小「本当ですか？」

『本当です』

と、報告し教室に向かつた。教室に着くと

当「創破、能力検査 システムスキャン はびつだつた？」

と、聞いてきたので

『「LEVE」・5だつ「ええええーー」た・・・・』

当「創破、お前つて凄い奴だつたんだな」

『当麻なにを今更いつてんだ』

この様な会話をしていると小萌先生が入ってきて

小「はーい、静かにするですよー。今から臨時全校集会をするから
体育館に集合するですー」

と、言い教室を出て行つた。

青「なあ、創やんこれつて創やんが「LEVE」・5になつたからや
ないん?」

『たぶん、そうだろ?』

と、言い体育館に向かつた。

『side創破end』

『side三人称』

全校生徒が体育館に集まり

校「今から、臨時全校集会を始めます。今回、臨時全校集会を開いたのは今回的能力検査

システムスキャンでこの学校で初めて「LEVE」・5が現れたことについてです」

「一年A組の御神創破君前に出て下さい。そして、序列を統括理事会副理事長様に発表して頂きます。副理事長様も前にいらして下さい。」

御神だけが前に出た。御神だけだったのを教員は慌てていた。

校「副理事長様は前に『あ、副理事長は僕です』いら・・・・・」

全「えええええええ」

『何故驚くんですか！？御神創破＝副理事長と思つでしょ』

全「普通は、思いませんよ。」

普通の人はそこまで思いつかないに決まっている。御神は長い年を生き過ぎて常識が無くなつてしまつた・・・・・・と思つ。

『それは、失礼した。それはさておき、僕の序列は・・・・・2位ですね』

「そ・・・それでは、臨時全校集会を終わります」

そして、臨時全校集会は終了した。

当＆青「「創破（創やん）」」

当＆青「「統括理事会副理事長で本当かよ（なん）」」

『ああ、嘘じゃない』

当「創破様?少し宜しいで『普通に接してくれ』…………わかつた」

当「創破は統括理事会副理事長なんだろ」

『ああ

当「実年齢は何歳で何で何故この学校を選んだんだ?」

『実年齢はおしえないが、この学校を選んだわけは
・・・・・・・・・公正なあみだくじの結果だ。』

この時、「統括理事会副理事長がそんな理由で学校を選んでいいのか——」
とクラスの全員の言葉と心が一致した瞬間であつた。

The 3rd Edition (後編)

これから更新スピードが落ちるのでその通りを理解して頂きた
いです

誤字・脱字があれば報告を下さご

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8501p/>

とある科学の第一能力者 The First Person With Supernatural Power>
2011年1月8日20時03分発行